

ミニ講演会参加者アンケート集計結果

日時場所：2015年1月19日（月） いきいきセンター金沢

テーマ：「言葉が違う 文化が異なる」という出会い

講師：早稲田大学名誉教授 細川 英雄 先生

参加者：27名（内 日本語部員 17名）

アンケート回答者数：22名

1) 講座内容は如何でしたでしょうか。

期待通り=12 まあ期待通り=10 期待はずれ=0

2) 多文化共生を理解するのにお役に立ちましたでしょうか。

大いに役立つ=12 まあ役立つ=10 役に立たない=0

3) ワークショップへのご参加は如何でしたでしょうか。

質疑応答の形となり、従来型のワークショップはありませんでした。

4) 今後、このような講座があれば参加されますか。

是非参加したい=9 できれば参加したい=13 参加しない=0

5) 自由意見

- ・常に学習者のニーズに沿って一緒に勉強していますが、学習者が将来は母国に帰りたいとおもっているようでさびしい。日本ではアイデンティティの確保が出来ないのか。
- ・多文化共生：同国人が集まるコミュニティに力を貸したほうがお互いにハッピーなのではないかと考えさせられた。
- ・文化の異なる環境の中で、アイデンティティを確保維持していくのはむづかしい。文化宗教生活習慣などの違いがいじめや争いのもとになることもある。
- ・講演中に回覧された著書・冊子をラウンジで購入してほしい。
地域の日本語教室の存在意義は？ 大きな宿題。
- ・言葉と文化が同じだから分かり合えるはず、というのは幻想である。
日本語教室では「関心をもって立ち会う」関係でありたいと思う。
- ・教えるではなく、ともに学ぶことの大切さを理解できた。また教科書にたよらないで

勉強してきたことに自信をもてた。

- ・インド社会の多様性の中でのアイデンティティの重要性を想起し再確認できた。
- ・「関心をもって立ち会う」腑に落ちた。日本語教室にどう生かすかがこれからの課題。
- ・講演は難しかったが、質疑応答は具体的でわかりやすかった。
- ・習っている、教えている、のではなく「立ち会って共感する」これが大切と共感した。
- ・学習者によりそっていく＝立ち会って共感する、これからもこのスタンスで活動する。
- ・子供達に接する時間は、学習時間と興味をシェアする時間を使い分けていきたい。
- ・自信をもって生きていく力をつけること・心からの対話の大切さを理解できた。
- ・関心をもって見守るためには自分自身を高める学習に励む他ない、重い課題だ。
- ・ワークショップではなく、質問し、答え、また議論するという今回の形式はよかった。
- ・国語として日本語に執着せず、いくつかの言語のなかのひとつとして認識することが多文化共生にもつながる。
- ・あらためて、自分の地域での活動の目的を考えるよい機会になった。
- ・これまでのラウンジ活動は参加者にとって本当にこれでよかったのか考えさせられた。
- ・教えることは教えてもらうこと、認めることは認めてもらうことと受け止めた。
- ・「私はここにいていいんだ」この言葉が一番心に残った。

6) 質問・講師へのお願い

- ・紹介された文集を申し込みたい。■■■■■
- ・月一回の「日本語でしゃべろう会」は学習者にはプレッシャーをあたえているのでしょうか。気楽におしゃべりする機会だと思っているのは教える側の思い込みでしょうか。■■■■■
- ・自分から発話しない中学生がいます。パソコンゲームを通しての語彙を覚えはじめていますが、このまま待っていて良いのでしょうか。対話の段階まで進めるのでしょうか。■■■■■

以

